

東北学院大学における キャリア形成及び就職支援

●東北学院大学



東北学院大学 就職部
就職課 課長

土田 恵介

東北学院大学の歴史は、1886年にキリスト教伝道者の育成を目的に開校された私塾「仙台神学校」にさかのぼる。現在は、各学部に大学院各研究科を設置し、文学部、経済学部、経営学部、法学部、教養学部、工学部の6学部15学科で、キャンパスが3つに分かれる学生数12,000名の総合大学である。学生のほとんどが東北出身者であることから、より地元に着した就職支援も展開している。

就職支援は、「学生生活の目標と自分の力を見つめなおす」1、2年次と、「将来の進路を決め、活動する」3、4年次に分けて行っている。それぞれのキャンパスに就職課(係)を置き、専任スタッフ15名、非専任スタッフ4名の19名体制で支援を行っている。

■1、2年次(低学年層)からの取り組み

1 1年生の入学時に、高校と大学の学び方の違いや、大学で身に付けた「学び」の力を元に、未来を見据えたキャリアデザインについて指南する「キャリアサポートブック」なる冊子を学生全員に配布し、基礎セミナーなどで活用を図っている。

2 他地方大学同様に、就職希望者は地元志向や公務員志向が高いことから、1年次の夏休みから公務員講座を開講し、早い段階からの準備を支援している。(平成23年3月卒業者の公務員実績163名)

3 コンピテンシーテストと職務適性の検査を無料で実施し、また同時にガイ

ダンスを行っている。自分の強み・弱み及び適性を認識することにより、今後の学生生活の過ごし方を考える気づきを促している。

4 各業界で活躍している社会人を講師に招き、「トークイベント」を秋に10回開催している。ここでは、単なる講演ではなく、学生からの質問時間を多くとり、より働くことへのイメージを促している。

5 既に各学部のカリキュラムでは各学部独自のキャリア教育科目が開講されているが、平成25年度からはさらにカリキュラムの改正を行い、全学部共通科目名でキャリア教育科目が導入される。ここでは、シラバスや担当教員について、就職部がコーディネーターを行う計画である。

■3、4年次(高学年層)対象の取り組み

1 就職部主催のインターンシップを、3年次の夏休みに実施している。受入企業・事業所数は毎年100社を超え、応募者も650名前後と多く、マッチング後に就労体験をするのは250名前後である。申込者は課題テーマの申込書はもちろんだが、職業適性検査を受け、事前研修会も数回実施してインターンシップに参加している。

2 外部講師によるエントリー添削講座と面接対策講座の双方を行っている。学生への窓口支援は大学職員が行うのが基本方針であるが、各企業のエントリーシート提出は2月から

3月、面接は4月から5月に集中するので、専任スタッフだけでは対応が難しい。そのため、外部講師を延べ350名招聘し、きめ細かい支援を行っている。

3 学内での合同セミナーと単独セミナーの開催。学生、企業の双方に負担がかからず、内定に結びつきやすいセミナー(説明会)を地元企業中心に多く開催している。

4 学内での業界研究講座、企業研究講座も25回程度行い、学外での合同セミナーを1月と9月に開催している。1月の参加企業は400社である。

5 SPI適性検査を2回、無料で実施している。公務員講座は1、2年次に引き続き開講し、就職ガイダンスも年10回開催している。

6 すべての学部ではないが、就職スタッフと就職担当の教員が3年次の1月に学生面談を行い、今後の方向性の確認やアドバイスをを行っている。

高校生の大学選定の基準として、卒業後の就職先は大きな関心事であり、大学が入学後にどのようなサポート体制をとっているかが評価対象となっている。東北学院大学では、キャリアカウンセラーの配置や地元中小企業家同友会、中小企業団体中央会などと連携を図りながら、きめ細かい支援を行っている。